



同窓報 千南原

第 3 号

昭和 5 3 年 7 月 1 日 発行

編集・発行

藤枝市天王町1丁目7-1

静岡県立藤枝東高等学校

同窓会事務局

同窓会基金募集に寄せて

会長 榎田 俊作

卒業生の皆様方へご挨拶申し上げます。私達の母校は大正十三年に開校され、以来志太中学校、志太高等学校、藤枝高等学校、藤枝東高等学校と幾度かその校名は変わってまいりましたが、同じ学び舎を卒業してからすでに五十年を過ぎた第一回生から、本年三月に卒業した第五十一回生まで卒業生数は約一万二千名となりました。卒業生各層により皆様はそれぞれの思いを出して下さるの心願を致し、母校が私達の心ふるさとして生き続けていることは確かなこととあります。

この母校である藤枝東高校が今日、次代を担う高校生育成に志太藤枝地区の中心校として名実ともに発展してきたことは誠に喜びに堪えない次第であります。更にこれから母校で指導を受ける生徒が、心身ともに健全な成長を遂げ、有為な社会人として活躍されることと母校に大いに期待するものであります。

さて同窓会は母校の教育環境の充実をはかる一環として昭和四十二年に同窓会館の建設事業を計画しました。当時をふり返ってみると、今までにない大事業であり、支部会員の方々、卒業回りの役員の方々には並々ならぬご尽力を賜り、地元に住居される卒業生は申すまでもなく、全国各地で活躍されている多数の卒業生からも多大なご寄付をいただきました。以来、三年八月に竣工いたしました。多様な会合などに利用され、初期の目的を果たしております。この建設事業の資金をご寄付くださった方々も年々高令化していき、これから新しく卒業される

方々には、多くの先輩の方々の汗の結晶で建設された同窓会館を今後末永く健全に維持、発展させて下さることを強く望むものであります。この同窓会館を利用いたいただく場合に、現在改善しなければならぬ点の点がいくつかあります。皆様ののご要望にそえるように改善してまいりたいと存じます。今ここに過去十数年間の同窓会館のあり方を振り返る時、今後の母校の教育振興をはかる事業に協力する場合に相当額の同窓会基金を持つ必要性を感じております。従って、別掲のように同窓会基金として二千万円を卒業生の皆様方より生ずる利息をもつて適切な運用をしていくことにより、生徒の資質の向上に役立てたいと深く願っております。

昨年来、何回かの役員会で募集計画を協議検討し、卒業回別に役員の方がクラス会を開いた時に趣旨の説明を、また全会員へとりあえず趣旨を郵送したり、連絡するなどの大変面倒なことを引き受けていたため、毎日寄付金の入金通知を受け誠にありがとうございます。また私ども本部役員が地元の藤枝市、焼津市、大井川町、岡部町に居られる方々の中で特別寄付を、お願いしあげましたこと、早々に快く格別のご理解ご協力をいただきました各位に衷心から感謝を申し上げます。

今回は第一回の報告として六月十五日現在までに寄付いただいた方々をお知らせする次第です。もとよりの目標額を達成するには、各役員の方々のご協力によりその回の卒業生への連絡を密にいたしました。同窓会本部の役員も本年度は地元から静岡市、清水市、島田市、浜松市まで、更に県外の方々までできる限り募金に回りたいと考えております。皆様にはこの趣旨をご理解いただきまして、ご寄付を賜りたく特に懇願申し上げます。次に同窓会報を発行することに決定いたしました。簡単なものでも発行するとなさなかなかから何回卒業の同級生がどこで開催されたか、支部の会合、恩師の消息、学校の様子、部（クラブ）の活動状況などを掲載したいと思っております。皆様へお送りしたいと思っておりますので、こうしたニュースを同窓会事務局までご一報いただければ幸いです。次回は第二回の寄付金の報告を兼ねて近々に発行を予定しております。

「同窓会に期待するもの」をウェブ上に求められましたが、その前に紙上をかりて先ずごあいさつを申し上げます。小生は昨年の四月に校長を拝命し、浜松市立高等学校より転任して参りましたが、既にご挨拶に正式の場で、ごあいさつを申し上げます。ご承知のとおり、誠に失礼をいたしました。その間、榎田会長様はじめ同窓会役員の皆様にはご支援をいただき、学校は陰に陽にご支えをいただいております。心から厚く御礼申し上げます。とりわけ昨年度から同窓会基金の募金運動を広く展開せられ、着々とその成果を挙げ、おられる様子を拝見し、各位の努力に対し敬意を捧げるとともに、ご同慶に耐えないうところでありませぬ。

それにつけても榎田会長様には昨年の秋以来、健康を害され一時は心配しましたが、春の訪れとともに幸い快方に向われた由承りまして、本当によかったと思っております。お人柄で皆に慕われ、そのうちに校長室のドアをノックして、「やあ校長さん!!」というあの厚みのある声を聞きたいものと心待ちにしております。さて学校は本年度、確か五十五年目を迎えたと思っておりますが、旧制志太中時代の面目にかけても、職員生徒一丸となって進学成績の向上に励んでおります。これは、学校に課せられた地域の期待であり、時代の要請でもあるのです。本年三月の卒業生も、前年度の躍進にも増して、それ以上の好成績を挙げ、浪人すれば大学入試制度の改善（共通一次テスト方式と国立一期

ルーツを探る

中学校長 野口 太 淵

同窓会名簿の編集発行にはおおよそ一年余りかかりました。できる限り正確を期して準備に入りたいと思っております。よって各回毎の同級生名簿等が作成されましたら是非とも一部事務局へお送りいただきたくお願い申し上げます。最後に卒業生の皆様方からご健康でそれぞれの道で活躍下さらんことを祈念いたし、ご挨拶といたします。

二期の廃止)により、不利な立場に立たされるので、多少目標を下げてでも現役で入ってしまおうように指導されておりました。その結果、私学の合格が昨年より約一〇〇名も伸び、大変な増加をみた反面、ここは落ちてはならないかと危惧されましたが、いざ蓋をあけてみると、三三四名の成績を取め、引続いて県下五指の中に入ることができました。

また運動部の近況について。卒業生の皆様の最大の関心事は、何を携いてもサッカーの活躍であろうと思っております。昨年度は当初劣勢を伝えておりましたが、夏の頃から力をつけて日韓高校サッカーで韓国を破り、冬の高校選手権では決勝戦にまで駒を進め、今一步というところで浜名の軍門に降りた。引続き新人戦でも決勝戦で静岡に勝を譲りましたが、これからは楽しめる好材料を残してあげたい。ここで申し上げたいのは、サッカーだけでなく、他のスポーツでも仲々に力を付けて来ていて、ということでありませぬ。

バスケットの新人戦では浜商、静岡等の強剛を破り、興誠に次いで二位の座に躍進、続いて選抜大会の東海予選に駒を進めましたが、コソダシヨシメの残念で、名電高にまた格技特選に剣道は昔から振興が叫ばれた話を聞きますが、昨年度は柔道にちょっとした話題がありました。新人戦で五七位級の東海四県大会に出場して、一勝二分の好成績を挙げられました。さて進学とスポーツを併せて紹介しましたが、文武両道は創立以来の本校の教育方針であったと承っております。大正十二年に志太中学

校の設立が認可され、十三年に第一回卒業生が入学して、初代校長錦織兵三郎先生がサッカーを校技として導入し、人格陶冶の柱とされたのです。爾來青春を賭けて悔いのない人生を礎いた幾多のOBを輩出したのであります。サッカーの町藤枝を、全国の場に名をなした原動力は正に茲にあることと存じます。その間星霜を閲すること五十有年、藤枝東高の歴史と伝統はゆるぎないものに礎かれたました。そして温古知新、今や本校のルーツを探り、学校の姿を明かにすることに努むことができると信じます。さらさら敷きつるものと信じて、同窓会の姿そのものが学校の校風であり、藤枝東の文化であると言いたいのであります。

伝承なきところに文化なしと言いますが、たゆまざる伝承の中に、人となりが気高く磨かれてこそ、文化が生れるというものです。その意味においては、この際同窓会に期待したいことは、校史の編纂をめざして、創業の古にまで遡った資料収集に手をつけることである。大先輩の眼の黒いうちにルーツを探り、母校の創立の精神を明らかにして、さらに今日に至る精華を文字に刻むことをお願いしたいと思っております。求められるままに少くも期待をこめて、勝手なことを述べさせていただきます。最後に同窓会の益々の発展を祈って、ごあいさつに代える次第であります。

母校の近況

順調な大学合格状況

今春三月の本校卒業生の国公立大学合格者は現浪含めて一九六名(国立大学一六五名、公立大学三名)、これは県内第四位の成績です。特に静岡大学合格者四名、公立大学合格者三名、公立大学合格者一名、進研・福武書店調へにより、ただ難関大学への進学者数はまだまだ充分とは言えませぬ。生徒の実力向上のため、更に努力を続けたい。

ともすれば事前準備の不足と単なる慣習的な観光旅行に終りがちだった従来の修学旅行に対する反省から、昭和四十五年、学校に修学旅行研究委員会が設けられ、一年間研究討議をし、本校の新しい修学旅行のあり方が決められ、昭和四十六年度から実施、その後若干の修正を加えつつ、昭和五十三年度はつぎのような形で行なわれる。

一学期に文化祭

大学入試制度の改正で

本年度より国公立大学の入学試験制度が変更され、大学入試が二度行われることとなった。一回は希望者全員同じ問題で行われる共通一次試験、二回は各大学独自で行われる二次試験である。その日程は次の通りである。

- 1. 効果をおげるために事前準備と事後報告を充実させる。
- 2. テーマ別小集団(30名、50名)で二年生の長期休暇に四泊五日の研修を中心とした旅行とする。
- 3. テーマは学校で研究設定したものから生徒が一つを選ぶ。

二次試験各大学で実施

3月20日
各大学合格発表
これに伴って今まで行われていた九月下旬の文化祭は、三年生の進路決定及び願書提出期と重なり実施困難となつた。そこで種々協議の結果六月下旬に繰上げられた。本年は六月二十四日・二十五日の二日間行われた。なお体育大会は従来通り九月に行われる。

- a 平安コース(京都、奈良)
- b 東北コース(奥の細道)
- c 高原教室(長野県白馬村)
- d 木曾路(島嶼藤村文学)
- e 北陸コース(北陸・能登高山)

10月1日、15日
共通一次試験願書提出
11月13日、14日
共通一次試験実施
2月9日、15日
二次試験願書提出
3月4日

その他、年度によつてスキー教室や登山コースなども設定された。このような修学旅行改善への試み、研修旅行は県下の高校の修学旅行の新しい形態として注目されている。



同窓会館